

情報社会文化課程

(平成25年度)

コース	授業科目	単位	開講年	実施時期	曜限	担当者	備考
社会文化コース	A・A地域論 I	2	25	後	木4	甘利弘樹	
総合表現コース	身体表現基礎	1	25	前	木5	麻生和江	公開授業登録科目
	身体感覚の知覚演習	2	25	前	金5	麻生和江	公開授業登録科目

※対象学年は、指定のあるものを除き全学年対象である。

授 業 科 目	必修・ 選択別	単位数	対象 学 年	学期	曜・限	担当教員
A・A地域論I Study of Asia and Africa Areas I	必修	2	2	後期		甘利弘樹 内線:7544 e-mail:hiamari@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

世界のチャイナタウンについて考える。チャイナタウンは、華僑・華人と呼ばれる人々によって形成されてきたが、その歴史・現在の生活様式から我々が学ぶことは非常に多い。チャイナタウンの共通性・多様性をみながら、文化の変容について考察してみたい。

【具体的な到達目標】

1. 現代そして未来の世界経済において重要な位置を占める華僑・華人について理解を深めること。
2. チャイナタウンにおける文化を把握できること。
3. 中国文化の世界的展開について考える姿勢を作り出せること。

【授業の内容】

1. ガイダンス
2. 華僑・華人とは？
3. チャイナタウンとは？
4. 僑郷(華僑・華人の故郷)について
5. 華僑・華人の歴史
6. チャイナタウンの文化 ー景観・食文化ー
7. チャイナタウンの社会
8. 日本のチャイナタウン(1)
9. 日本のチャイナタウン(2)
10. 東南アジアのチャイナタウン(1)
11. 東南アジアのチャイナタウン(2)
12. アメリカ・カナダのチャイナタウン(1)
13. アメリカ・カナダのチャイナタウン(1)
14. ヨーロッパのチャイナタウン
15. アフリカのチャイナタウン

【時間外学習】

図書館の本・インターネットの情報などを収集し、華僑・華人、チャイナタウンについてはもとより、中国や世界各国について、常に理解を深めてください。

【教科書】

使用しません。プリント資料・ビデオ資料を使用して授業を進めます。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価方法及び評価の割合】

総合評価。受講時のマナーの遵守状況25%・試験25%・授業後のレポート25%・ノートのまとめ25%。以上4つのうちいずれかの成績が不合格の場合、全体として成績が不可となります。

【注意事項】

ガイダンスの際に指示します。ガイダンスに出席できない受講生(または受講予定者)は、事前に担当教員に連絡を取ること。

【備 考】

受講状況に応じて内容を変更することがあります。
社会人向けの公開授業とします。

授業科目	必修・ 選択別	単位数	対象 学年	学期	曜・限	担当教員
身体感覚の知覚演習 Body perception	選択必修	2	1	前期	金5	麻生和江 内線:7627 e-mail:kaso@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

身体全身の重さ。大きさ、動き方などを感じとることによって、身体が存在を知覚し身体性への認識と知覚能力を高める。

【具体的な到達目標】

- 1.人間の表現行為としての舞踊について理解する。
- 2.芸術としての舞踊について理解する。
- 3.教育としての舞踊について理解する

【授業の内容】

1. ガイダンス
2. 脱力
3. 歩行
4. 身体を動かす
5. 観察
6. 人型
7. 人間粘土
8. 転がる
9. 起きあがる
- 10.他者からの刺激
- 11.条件を付けて即興①1人
- 12.条件を付けて即興②集団
- 13.条件を付けて即興③パフォーマンスとして
- 14.コンタクト・インプルビゼーション
- 15.発表会・まとめ

【時間外学習】

発表会は、他の科目受講生作品とともに時間外に実施する。

【教科書】

随時配布

【参考書】

随時配布

【成績評価方法及び評価の割合】

毎時課題到達状況70% 最終パフォーマンスでの目標達成度30%

【注意事項】

・受講生の状況に応じて授業内容の順序変更することがある。

【備考】

・特になし

授業科目	必修・ 選択別	単位数	対象 学年	学期	曜・限	担当教員
身体表現基礎 Body Expression Basics	必修	1	1	前期	木5	麻生和江 内線:7627 e-mail:kaso@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

表現形式としての身体運動表現に理解を深め、技能を高め、作品創作の基盤的素養を体得する。

【具体的な到達目標】

- 1.人前で演技が出来るようになる。
- 2.素材からモチーフを引き出し動きのフレーズにまとめることができるようになる。
- 3.身体表現のまとめとして作品を構成でき、演技が出来るようになる。
- 4.作品、舞台、客席等、会場等に関わる基本的な名称や意味、機能を理解する。
- 5.知的障がい者とダンスで交流できるようになる。

【授業の内容】

- 1.オリエンテーション
- 2.自己紹介パフォーマンス
- 3.リズムダンス
- 4.動き伝え
- 5.風景描写
- 6.動く風景
- 7.音から起こす動きのフレーズ
- 8.からだリズム
- 9.舞踊作品の色々なきまりについて
10. 作品創作①はじめ
11. 作品創作②なか
12. 作品創作③おわり
13. 作品創作④修整
14. 発表会
15. 鑑賞会、まとめ

【時間外学習】

作品創作学習に有効と考えられるVTRや音楽等を収集しておく。作品鑑賞学習を実地で行うことを予定しているが、詳細は事前に授業で知らせる。

5月・6月・7月第三土曜日・午前中実施の知的障がい者との交流会に1回以上は必ず参加すること。

【教科書】

随時配布

【参考書】

随時配布

【成績評価方法及び評価の割合】

作品点 20% 各時間の課題到達状況60 % 課題レポート20%

【注意事項】

- ・授業名称は異なるが、情報社会文化課程総合表現コース、学校教育課程保管体育専修、人間福祉科学課程スポーツ健康分野の学生が合同で受講する。
- ・指定のウェアがあるがオリエンテーション時に説明する。

【備考】

- ・14時間目の発表会は、授業時間外に他科目の授業と合同発表会を実施する。